

## 文化の日に思ったこと

最近、学校現場の状況から離れ、理想論ばかり語るようになってしまった。しかし、教育は理想を語ることも大切だと思い、今週もそこはかとなく書きます。

まずひとつ。

金曜日夜NHK総合の「ドキュメント72時間」がお気に入りです。毎週、テーマと場所を定め、そこに集う人たちを定点観察する番組です。

今回は、スペインのカナリア諸島の港で、日本の遠洋漁船の寄港地です。

教育の見方で感じたことが2つありました。

遠洋漁船の中はグローバル社会です。船主や船長が日本人でも、作業員やコックなどは外国人が多いようです。相撲部屋同様に日本語でしゃべるが、当然外国語も流通する。言葉以上にコミュニケーションが大切。過酷な労働と居住環境の中、コミュニケーションは最重要問題です。しかし、外国人船員が、船長を慕い、船長は外国人船員と仲良くする。テレビは表面的だろうが、船長のコミュニケーションスキルは素晴らしいものである。

船外から町へ繰り出すと、商売相手の現地人は片言の日本語を話す、日本人船員も簡単な現地語を話す。世界中行くので、様々な言語と関わることだろう。このようなことは、大昔から船乗りの世界では当たり前のことであったのだろう。グローバル化の名の下、学校で英語を学ぶことが小さく見えてしまうくらいダイナミックなことだ。

また、番組の船の乗組員に、日本人で18歳の男性がいた。施設で育ち、今は船に乗り、将来を期待され、大切に働かせてもらっていた。彼曰く「自分は弱いから、陸だと逃げられるけど、船では逃げられない。」「笑顔がいいって言われたから、笑顔を大切にしています。」と。

遠洋漁船の中は、自分の強み弱みを理解させ、自らのキャリアを形成させようとしている。最高のキャリア教育ではなかろうか。NHKさん、彼の今後を追いかけてください。

ふたつめ。

ある番組で、スイスの様子が出ていた。

番組に出ていたスイス人家族には、6人の子供がいて、3男、4男が通う学校の様子が出ていた。

低学年の教室の様子が出ていて、始業前、粘土細工を行っていた。

先生は、表現力を育成する教育の一環として、1日のスタートに粘土細工をさせていた。

表現するには、粘土や絵画がいいらしい。個性が出しやすいそうだ。

悪い癖が出て、ふと、我が国の小学校と比較してしまった。

一部の学校では、朝の遊ぶ時間を切り詰め、ドリルや読書が行われている。悪いことではないが、朝のはじめからインプットが始まっている。スイスが必ずいいとは言わないが、朝のはじめにアウトプットしてから本日の学びに入る。自分の今までにはなかった発想だ。

子供の頃、当番になったら、昨日のことをみんなの前でスピーチをしていた。これもアウトプットなのか。まず、出して空っぽにしてから詰め込みに入る。これもいいことかもしれない。

また一つ感動し、何かヒントを得たような気分になった。